

父の日

今日もJALグループの翼をお選びいただき、
ありがとうございます。

暦こよみを追い越すような暑さの日が増えてまいりましたが、機内でのひとときを心地よくお過ごしただけておりますでしょうか。

6月の第3日曜は「父の日」ですね。父の日は20世紀初め、「父を讃えたい」という娘の想いから広まったそうです。日付や過ごし方、そして表現方法は世界各地でさまざまですが、大切な人への想いは万国共通だと感じます。

私の父は、真面目で寡黙な人でした。他人の悪口を言わず、誰に対しても公平。兄や私を自立した一人の人間として尊重してくれていたような気がします。その背中から多くを学んできたからでしょうか。今でも何か大きな決断を迫られるとき、「父だったらどうするだろう」と考えることがあります。

父との思い出で真っ先に浮かぶのは「卓球」です。小学生の頃、近所の公民館でラリーを重ねる時間が本当に楽しく、足繁く通っては真剣勝負を繰り返していました。大学生になり一人暮らしを始める際、引越先の名長崎まで2人で車で向かったこともありました。免許取りた



ての私は道中の景色も会話も楽しむ余裕はありませんでしたが、助手席で（きつとひやひやしなごら）見守る父の気配が心強かったことだけはよく覚えています。

私が20代前半の頃、父との時間は思いもよらないほど早く終わりを告げることとなりました。当時は、客室乗務員として乗務する機内で父と

似た雰囲気のお客さまにお会いすると、涙をこらえるのに必死だったことを思い出します。もつといるような場所へ連れていけばよかった。自分の乗務する便に乗ってもらえばよかった。そんな「もつとこうしていれば」という想いは、今も心の奥にしまったままです。もし今父が隣にいたら、父の行きたい所へ私がエスコートする旅をプレゼントしたい。大人になったからこそできる本質的な話をたくさん交わしたい。そんなことを、この季節になると思います。

年齢を重ね、立場や考えが変わるごとに、その時々でしかできない会話があるように思います。日々の暮らしの中ではつい後回しにしてしまふ感謝の言葉や、普段できないような話も、「父の日」というきっかけがあれば、少しでも素直に伝えられるかもしれません。どうかこの空の旅が、皆さまと大切な方を結ぶものになりますように。

次回のご搭乗も心よりお待ちしております。

イラスト／山本祐布子

とつとり みつこ／1964年、福岡県久留米市生まれ。1985年4月入社（客室乗務員）。2019年に客室安全推進部長、2020年に執行役員、客室本部長、2022年に常務執行役員、客室本部長、2023年に専務執行役員、カスタマーエクスペリエンス本部長に就任。同年6月に代表取締役専務執行役員、グループCCOに就任し、翌2024年4月から現職。趣味は音楽鑑賞と大河ドラマを見ること。

